

垢すり

小林 まもる

まだ年は若いのに
毎日 なにしているのですか
充電 しているところですか

聞かればいまは正直になれる
「いや二十年の垢おとし
わたしの詩作は垢すりなのです」

垢抜けしないといわれてきた

自生えはのほんものの垢

そのうえにまとった嫉妬深い
名利の垢の二十年を
せつせと着込んだ政治の垢を
灰汁抜きしてから垢すりすると
黒くよじれてコロコロポロポロ

詰おまった下水の澱おじのようだ

温まったなじみの垢は心地よい
新旧の垢の見分けもつかなくなつて
垢だらけと娘にいわれた垢枕

ヒトの細胞は七年で全部入れ替わる
然らば二十年の政治の垢は
三重塗りの厚ものに違いない